

- 問1 北海道東部の根釧台地に位置し、夏に濃霧が発生しやすい冷涼な気候を生かして大規模な酪農が行われており、農業産出額の大部分を乳用牛が占めている自治体はどれか。 (2025年 青森県公立入試 類似)
1. 新篠津村 2. 別海町 3. 北見市 4. 夕張市
- 問2 北海道の知床半島を含む東部地域では、夏季に「濃霧」が発生し、視界が悪くなったり気温が上がりにくかったりすることがあります。この霧が発生する仕組みについて、海面を流れる潮の流れ（海流）と季節風の関係を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)
1. 太平洋から吹き込む乾いた季節風が、暖流である黒潮（日本海流）によって温められることで発生する。 2. 日本海から吹き込む湿った季節風が、暖流である対馬海流によって冷やされることで発生する。 3. オホーツク海から吹き込む冷たい風が、陸地の熱によって上昇気流となり、雲を作ることによって発生する。 4. 太平洋から吹き込む湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）によって冷やされることで発生する。
- 問3 日本の諸地域のうち、北海道地方について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。なお、北海道には世界自然遺産に登録された知床があります。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 道庁所在地は釧路市であり、水産業の拠点となっている。 2. 道庁所在地は函館市であり、本州との交通の要所となっている。 3. 道庁所在地は旭川市であり、上川盆地の中心都市である。 4. 道庁所在地は札幌市であり、都道府県名と都市名が異なる例である。
- 問4 北海道地方の気候の特色について、6月から7月にかけての状況を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 梅雨の影響をほとんど受けないため、本州以南で見られるような長期間の雨期ははっきりしない。 2. 北東から吹く冷たい風（ヤマセ）の影響で、この時期だけ急激に降水量が増加する。 3. 南東から吹き込む湿った季節風の影響により、本州よりも早く本格的な雨期が訪れる。 4. 停滞前線が長期間にわたって停滞するため、年間で最も降水量が多い時期となる。
- 問5 北海道の工業において、食料品工業が製造品出荷額の約3割を占める最大の製造業部門となっている背景を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
1. 原材料を海外から輸入し、消費地である関東地方に近い港湾部で加工・輸送するのに適しているため 2. 電力供給が安定しており、大規模な電力を必要とする金属の精錬や基礎化学品の製造に向いているため 3. 高度な技術力を持つ労働力が集中しており、自動車や精密機械などの組み立て工場が密集しているため 4. 広大な土地や豊かな海から得られる農水産資源が豊富であり、原材料の調達が可能であるため
- 問6 積雪の多い地域の道路で見られる、道路の上方に矢印を掲げた「固定式視線誘導柱」という標識について、その仕組みや必要とされる背景を説明したものととして適切なものはどれですか。 (2021年 兵庫県公立入試 類似)
1. 地吹雪による視界不良を防ぐために、道路脇に設置された防雪柵が作動する範囲を運転者に伝える仕組み。 2. 路面が凍結しやすい場所に設置され、気温が一定以下になると矢印が自動的に発光してスリップ注意を促す仕組み。 3. 雪の重みによる路面の変形を確認するため、道路の測量地点を高い位置から特定しやすくする仕組み。 4. 道路の端（路肩）の位置を高い場所から指し示すことで、地面が雪に覆われた状態でも車道の範囲を知らせる仕組み。
- 問7 日本の生乳処理量を調査した統計において、バターやチーズの原料となる「加工用生乳」の処理量は北海道が全体の約89.3%と圧倒的であるのに対し、直接飲むための「飲用生乳」の処理量は関東や中京圏などでも高い数値を示しています。このような違いが生じる背景について正しく述べたものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. 大都市周辺では牛の飼料となる牧草を自給する広大な牧場を確保しやすいため、鮮度が求められる飲用牛乳の生産を独占している。 2. 北海道は広大な土地を活かした大規模な酪農が行われているが、遠方の大消費地へ鮮度を保ったまま届ける必要がある飲用牛乳よりも、保存のきく乳製品への加工に重点を置いている。 3. 飲用牛乳は加工品よりも市場価格が低いため、輸送コストを抑える目的で、すべての都道府県において消費量に見合った自給自足が行われている。 4. 加工用生乳は飲用生乳に比べて腐敗しやすいため、消費地から遠く離れた北海道のような冷涼な地域で集中的に加工する必要がある。
- 問8 北海道の農業において、十勝平野などを中心に大規模に栽培されている「てんさい」の生産背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 山口県公立入試 類似)
1. 水はけのよいシラス台地の特性を活かし、寒冷地でも育つよう品種改良された。 2. 亜熱帯の気候に適しており、かつては沖縄で栽培されていたものが伝わった。 3. 温暖な気候を好む性質を持つため、夏場の長い日照時間を活かして栽培される。 4. 冷涼な気候に適した性質を持つため、日本では北海道が唯一の産地となっている。
- 問9 北海道には「稚内（わっかない）」や「室蘭（むろらん）」など、特徴的な響きを持つ地名が多く存在します。これらの地名は、北海道やその周辺諸島に古くから住み、独自の言語や文化を築いてきた先住民の言葉に由来しています。この人々の名称として正しいものを選びなさい。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 防人 2. えみし 3. 屯田兵 4. アイヌ
- 問10 北海道における二〇〇五年から二〇二〇年にかけての農業統計では、農業経営体の総数が五百四十七から三百四十九へと大幅に減少する一方で、団体経営の数は三十五から四十三へと増加しています。また、経営耕地面積の合計は大きな減少を見せていないため、一経営体あたりの面積が拡大しています。このような北海道農業の動向を表す言葉として最も適切なものはどれですか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
1. 近郊農業の展開 2. 減反政策による生産調整 3. 農業経営の大規模化 4. 二毛作による土地利用の向上
- 問11 札幌市の中心部に見られる、道路が垂直と水平に規則正しく交差するように設計され、住宅地や商業地が正方形に近い区画で整理されている街路の形態を何と呼びますか。 (2020年 島根県公立入試 類似)
1. 放射状の街路 2. 同心円状の街路 3. 不規則な街路 4. 格子状の街路
- 問12 かつて農業に不向きであった石狩平野の泥炭地を、日本有数の稲作地帯へと変えるために行われた工夫や取り組みについて、正しい説明を選んでください。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
1. 他の場所から性質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった土地改良を行った。 2. 大規模な森林伐採を行い、燃やした灰を肥料として土に混ぜる「焼畑」を繰り返した。 3. 地力を回復させるために、農地を数年ごとに休ませる「輪作」を導入した。 4. 高台から水を引くための大規模な「ため池」を建設し、乾燥した土地に水分を供給した。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 別海町	根釧台地は寒流である親潮の影響で夏でも気温が上がりにくく、稲作や畑作が難しいため、広大な土地と牧草を利用した酪農が発達しました。選択肢の北見市は玉ねぎなどの畑作、新篠津村は石狩平野での稲作が中心であり、夕張市はメロン栽培などで知られています。
問2	答え 4 太平洋から吹き込む湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）によって冷やされることで発生する。	夏季の北海道東部では、南東の太平洋側から湿った季節風が吹き込みます。この風が、千島列島から南下してくる非常に水温の低い寒流である「親潮」の上を通る際、空気の温度が急激に下げられます。これによって空気中に含まれていた水蒸気が凝結して細かい水滴となり、濃い霧が発生します。この仕組みは、暖かい空気が冷たい海面に触れることで生じるため「移流霧」と呼ばれ、現地の農業や交通に影響を与えます。
問3	答え 4 道庁所在地は札幌市であり、都道府県名と都市名が異なる例である。	北海道の行政の中心である道庁は札幌市に置かれています。札幌市は、基盤の目のように区画された市街地を持つ政令指定都市です。北海道内には、知床という世界自然遺産が存在するほか、青森・秋田両県にまたがる白神山地や鹿児島県の屋久島など、日本の自然遺産が所在する自治体は、その場所や名称が中学地理において重要な学習事項となります。
問4	答え 1 梅雨の影響をほとんど受けないため、本州以南で見られるような長期間の雨期がはっきりしない。	北海道は地理的に緯度が高く、本州以南に長雨をもたらす梅雨前線（停滞前線）が北上してくる頃には勢力が弱まったり、消滅したりすることが多いため、明確な「梅雨」が存在しません。これは北海道の大きな気候の特色の一つであり、この時期の降水量が本州に比べて少ないことは、観光や農業における利点となることもあります。
問5	答え 4 広大な土地や豊かな海から得られる農水産資源が豊富であり、原材料の調達が容易であるため	工業の立地はその地域の資源と深く関わっています。北海道はジャガイモやテンサイ、乳製品などの農産物、および沿岸・沖合で獲れる水産物が豊富です。これらを腐敗させずに効率よく加工するために、産地に近い場所で食料品工業が発達しました。その結果、全国平均と比較しても食料品工業への依存度が非常に高い産業構造となっています。
問6	答え 4 道路の端（路肩）の位置を高い場所から指し示すことで、地面が雪に覆われた状態でも車道の範囲を知らせる仕組み。	積雪寒冷地における交通の安全を確保するための工夫を問う問題です。地面に設置する通常の反射板や白線だけでは、深い積雪や激しい吹雪（地吹雪）の際に視認できなくなります。固定式の標識を高い位置から吊るすように設置することで、雪の影響を受けずに「ここから先は路肩である」という情報を運転者に提供しています。
問7	答え 2 北海道は広大な土地を活かした大規模な酪農が行われているが、遠方の大消費地へ鮮度を保ったまま届ける必要がある飲用牛乳よりも、保存のきく乳製品への加工に重点を置いている。	生乳の利用形態と産地の関係は、消費地との距離と「鮮度」の関係で説明される。北海道は日本の生乳生産の大部分を担っているが、東京などの大消費地から距離があるため、輸送中に鮮度が落ちやすい飲用牛乳としての出荷には不利な側面がある。そのため、北海道では生乳をバターやチーズといった保存のきく乳製品に加工してから全国へ流通させている。これに対し、千葉県や神奈川県などの大都市近郊では、輸送距離の短さを活かし、鮮度が求められる飲用牛乳の供給に特化した酪農が行われている。
問8	答え 4 冷涼な気候に適した性質を持つため、日本では北海道が唯一の産地となっている。	てんさいは寒冷な環境でよく育つ植物であり、日本のなかでは冷涼な気候を持つ北海道が栽培の適地です。そのため、全国の収穫割合を示した資料などでも北海道が100%を占めるという極めて特徴的な分布を示します。砂糖の原料としてだけでなく、輪作体系の一翼を担う作物としても重要です。
問9	答え 4 アイヌ	北海道の地名の多くは、先住民であるアイヌの人々が使用していた「アイヌ語」に由来しています。例えば「稚内」はアイヌ語で「冷たい水の出る川」を意味する言葉が語源となっており、自然の地形や特徴を反映した地名が各地に残されています。屯田兵は明治時代に北海道の開拓と北方の警備を兼ねて全国から送り込まれた兵士を指すため、先住民とは異なります。
問10	答え 3 農業経営の大規模化	農業に従事する世帯（農業経営体）の数が減少する中で、一経営体あたりの経営耕地面積が広がる現象は「大規模化」と呼ばれます。北海道では、離農した農家の土地を他の経営体や団体経営が引き継ぐことで、広大な土地を効率よく管理する体制への移行が進んでいます。特に団体経営の割合が増加している点は、組織的な農業運営が強化されている背景を示しています。
問11	答え 4 格子状の街路	明治時代に設置された開拓使による都市計画において、札幌市の中心部には京都の街並みや北米の都市を参考にした道路網が築かれました。このように直角に交わる道路で構成された街画は、土地の管理を容易にし、計画的な都市開発を進める上での大きな特徴となっています。
問12	答え 1 他の場所から性質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった土地改良を行った。	水分過多で栄養不足な泥炭地を農地に変えるため、排水路を作って湿地を乾かし、別の場所から運び込んだ肥沃な土を混ぜ合わせる「客土」などの土地改良が大規模に実施されました。この地道な努力の結果、石狩平野は北海道を代表する米どころとなりました。